



三浦一族 月別 出来事表

写真：昭和30年大矢部の景観
(参考文献：『新横須賀市史 年表』 発行：横須賀市立中央図書館郷土資料室)

このカレンダーは、各年の曜日には対応していません。
参考用としてご覧ください。

三浦一族
月別出来事表

1月



住吉神社(横須賀市)
住吉神社は、古くは栗浜明神と称され、源頼家誕生の際に神馬が奉納された他、源頼朝や源頼家が参詣した。

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

		三浦義村・三浦泰村の屋敷、火災にあう（1238年）			三浦義村、二所奉幣使を命じられる（1228年）	
源頼朝、三浦義澄の屋敷に赴く（1194年）					・三浦一族の石田為久、近江国栗津(滋賀県大津市)で木曾義仲を討ち取る(1184年) ・北条時政等、三浦義村等を派遣し梶原景時一族を討つ(1200年)	源頼朝、内室をともない栗浜明神（現 住吉神社）に参詣(1185年)
	三浦義澄が没する(74歳)(1200年)	在京中の佐原盛連、酔って乱行をはたらく（1226年）	源頼朝、三浦三崎津に赴き、三浦義澄をはじめ三浦一族が駄餉を献じる（1195年）		・源頼家の子公曉、源実朝を殺害するが、三浦義村の討手に討たれる（1219年） ・三浦泰村内室(北条泰時の娘)死産する（1229年）	
三浦光村、香岐守に任じられる（1237年）						

三浦一族
月別出来事表

2月



三浦大介腹切松(横須賀市)
衣笠合戦の際、大軍に攻められ衣笠城
を出た三浦義明は、大矢部の松樹の下
で自害したと伝えられる。(上は大正8年
(1919)発行の同所の絵葉書、下は現在。)

1	2	3	4	5	6	7
						源義経、一ノ谷の戦いで鶴越より平氏の館を襲撃し、佐原義連これに従う (1184年)
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
	泉親衡の謀叛計画が発覚し、和田義直・和田義重・和田胤長等が捕えられる (1213年)	藤原頼経の上洛時、三浦義村は先陣をつとめ、三浦泰村・三浦光村等の三浦一族が多く供奉人に加わる (1238年)		屋島の戦いで和田義盛、平氏の船を攻撃 (1185年)		三浦義村、三崎海上に來迎講を構える (1229年)
22	23	24	25	26	27	28
			源頼朝、三浦義澄の家に赴き酒宴を催す (1187年)			
29						

三浦一族
月別出来事表

3月



硯箱（横須賀市立中央図書館郷土資料室蔵）
昭和初期、西浦尋常高等小学校（現 大楠小学校）近隣に住んでいた葦名家末裔の方が、毎年同校の卒業式の際、卒業生総代に「葦名家賞」として贈っていた硯箱。写真の資料は、昭和8年、卒業生に贈られたもの。

1	2	3	4	5	6	7
				源実朝、花見のために三浦横須賀に赴き、三浦義村一族等が駄餉を献じる(1215年)	三浦泰村、正五位下に叙される(1244年)	三浦光村、河内守に任じられる(1238年)
8	9	10	11	12	13	14
鎌倉中兵起の噂により、和田義盛、上総国伊北荘より鎌倉に参向し、源実朝と対面。子息義直・義重赦免の請を認められる(1213年)	源実朝、三浦三崎御所に赴き、翌日鎌倉に帰る(1212年)				鶴岡若宮仮殿遷宮あり、和田義盛がこれを奉行(1191年)	
15	16	17	18	19	20	21
				藤原頼経、遊覧のために三崎磯に赴き、三浦義村がこれをもてなす(1230年)	和田義盛とその妻小野氏、仏師運慶に毘沙門天立像・不動明王立像を造立させ、供養を行う(1189年)	
22	23	24	25	26	27	28
三浦義澄、壇ノ浦へ向かう源義経の地理案内の先登を命じられる(1185年)			和田義盛、和田胤長の荏柄前の屋地拝領を望み、これを許される(1213年)			
29	30	31				

三浦一族
月別出来事表

4月



一騎塚(左 横須賀市)
和田合戦の際、武次郎はここから単騎で鎌倉に参じて戦死し、後にこれを里人が哀れんで塚を築いて弔ったとの伝承により、その名がついたとされる。

大蔵幕府跡(右 鎌倉市)
和田合戦は、当初和田方が大蔵御所や北条義時亭に迫り、激しく攻め立てた。特に、和田義盛の子、朝比奈義秀の活躍は『吾妻鏡』に詳しく記されている。

1	2	3	4	5	6	7
	・北条義時、和田胤長の荏柄前屋地を拝領し、和田義盛の代官を追い出す (1213年) ・三浦泰村が評定衆に加えられる (1238年)					
8	9	10	11	12	13	14
・三浦光村、従五位下に叙し、検非違使に留まる(1233年) ・三浦光村、正五位下に叙される (1245年)	三浦光村、関東よりの使者として藤原(九条)道家のもとに赴く (1235年)	三浦義村、駿河守辞任 (1223年)	安達景盛、北条時頼としきりに密談し、子の義景、孫の泰盛等に訓戒して三浦一党に備えることを命じる (1247年)	源頼家の訴訟専断を停止し、北条時政・三浦義澄・和田義盛等13人の談合により決することとする (1199年)	三浦泰村、従五位上に叙される (1239年)	三浦光村、検非違使の宣旨を蒙る (1231年)
15	16	17	18	19	20	21
		藤原頼経、三崎津に赴き、三浦義村は船を儲け、佐原家連は遊女等を伴う (1229年)				
22	23	24	25	26	27	28
源頼朝、三浦義澄に相模国中寺社恒例仏神事の執行を命じる (1194年)						
29	30					

三浦一族
月別出来事表

5月



和田塚(鎌倉市)
和田義盛は、建暦3年(1213)5月2日に
挙兵し、御所や北条義時亭を襲撃する
が、翌日には鎮圧され、義盛以下和田
方の多くが討死・自害した。

1	2	3	4	5	6	7
	和田義盛が挙兵し、御所および北条義時亭を襲撃する(和田合戦) (1213年)	和田義盛が討死(67歳)、和田方敗軍 (1213年)				
8	9	10	11	12	13	14
		・源頼家、三浦の海辺に赴く(1202年) ・源実朝、和田義盛に命じて御家人秘蔵の奥州藤原氏の旧宝を召し出させる (1211年)		和田義盛、上総国司を望む(1209年)		
15	16	17	18	19	20	21
北条義時追討の宣旨が下され、三浦胤義等は後鳥羽上皇方に立ち、幕府京都守護伊賀光季を討つ (1221年)			源実朝内室、岩殿観音堂に参詣 (1211年)	甲斐国小笠原牧(山梨県北杜市)の牧士と奉行人三浦義村代官との喧嘩があり、源実朝は義村の奉行を改め、佐原景連にこれを付す (1211年)		源実朝が三浦三崎に赴き、和田常盛・和田胤長が小笠原の射手をつとめる (1210年)
22	23	24	25	26	27	28
・承久の乱につき、三浦義村・三浦泰村等、京都へ向け鎌倉を進発 (1221年) ・佐原盛連、在京時の悪事により殺害されたとの巷説あり (1233年)			北条義時、三浦海辺を逍遙し、三浦義村がこれをもてなす (1222年)			
29	30	31				

三浦一族
月別出来事表

6月



伝 三浦氏やぐら(鎌倉市)
源頼朝の墓がある法華堂跡付近に所在する。宝治合戦で三浦泰村は頼朝の墳墓堂であった法華堂に籠り、一族500余名とともに自害した。

1	2	3	4	5	6	7
				安達景盛等、挙兵して泰村を襲い、泰村等の三浦一族は法華堂に入り自害する(宝治合戦、三浦本宗家の滅亡)(1247年)		・和田朝盛が京都で捕えられる(1227年) ・三浦光村、能登守に任じられる(1241年)
8	9	10	11	12	13	14
					和田義盛、腰越浦で源義経の首を実検する(1189年)	
15	16	17	18	19	20	21
三浦胤義、上皇方の敗北を奏聞し、その後東寺門内に引きこもり三浦・佐原の輩と合戦し、子息とともに西山木嶋で自害(1221年)		・大御殿が建立され、三浦義澄がこれを奉行(1191年) ・源頼家、岩殿観音堂に参籠(1194年)	北条義時の葬送あり、三浦泰村等が供奉する(1224年)	源頼朝が三浦に赴き、三浦義明の旧跡を訪れる(1181年)		岡崎義実が没する(89歳)(1200年)
22	23	24	25	26	27	28
三浦義村、源実朝の命により畠山重保を誅し、次いで三浦胤義・和田義盛等とともに畠山重忠追討のために進発(1205年)		源実朝、和田義盛亭に赴く(1212年)			三浦家村、式部丞に任じられる(1241年)	
29	30					

三浦一族
月別出来事表

7月



怒田城跡（絵葉書）
怒田城は、現在の横須賀市吉井にあった城。ここは、鎌倉時代、入海に張り出した半島状の台地で、独立の丘状をなし、三方が海に接し東の一方のみが陸に続く天然の要害となっていた。衣笠合戦の際、和田義盛は衣笠城を出て要塞堅固な怒田城で戦うことを献策したが退けられ、衣笠城で迎え撃つこととなった。

1	2	3	4	5	6	7
北条泰時、子息時氏の死を嘆き、三浦義村はこれを諫める (1230年)						
8	9	10	11	12	13	14
	藤原頼経とその内室(源頼家の娘)が三浦義村宅に赴く (1231年)	幕府、御成敗式目を定め、評定衆11人が連署の起請文を呈し、三浦義村もこの中にあり (1232年)				
15	16	17	18	19	20	21
三浦泰村内室(北条泰時の娘)、女子を出産する (1230年)				源頼朝、奥州に向け鎌倉を進発し、三浦義澄・三浦義村・佐原義連・和田義盛・和田宗実・岡崎義実もこれに従う (1189年)	三浦光村、従五位上に叙される (1236年)	
22	23	24	25	26	27	28
侍所司 5 人が定められ、北条泰時が別当に補され、三浦義村・二階堂行村等は御家人のごとにつき奉行する(1218年)	藤原頼経、三浦義村の田村山荘へ赴き、三浦一族がこれに供奉する (1228年)			・源頼朝の征夷大將軍の除書を携えた勅使が鎌倉に到着し、三浦義澄が鶴岡八幡宮に赴きこれを受け取る (1192年) ・三浦泰村の女兒が没する (1230年)		
29	30	31				

三浦一族
月別出来事表

8月



十二所神社（横須賀市）
十二所神社は、古くは三浦十二天と呼ばれた。三浦十二天は、源頼朝が妻政子の安産祈願の奉幣使を遣わしたうちの1社で、佐原義連がその奉幣使をとつとめたことで知られる。また、文明12年（1480）、越後の三浦和田氏の流れをくむ黒川氏の起請文に「三浦氏神十二天」の記述が見えるなど、同社が三浦一族の氏神として長く崇敬された存在だったことがわかる。

1	2	3	4	5	6	7
源頼朝の新亭で酒宴あり、三浦義澄・岡崎義実がその座に加わる（1191年）			・三浦泰村内室(25歳)が出産前後の悩乱により没する(1230年) ・藤原頼経が若宮大路の新造御所に移り、三浦義村ら三浦一族が供奉人に加わる(1236年)			
8	9	10	11	12	13	14
源範頼、軍勢を率いて西海に赴き、三浦義澄ら、これに従う(1184年)	源頼朝内室の安産祈願のため、三浦宗元寺等の相模国の神社仏寺に神馬が献じられ、三浦義村がこれを率行し、佐原景村は鶴岡八幡宮に神馬を引く(1192年)	源頼朝、阿津賀志山で藤原国衛と戦いこれを破る。三浦義澄・和田義盛・佐原義連が奮戦し、和田義盛は敵将国衛を射る(1189年)	源頼朝、内室の安産祈願の奉幣使を各所に遣わし、佐原義連が三浦十二天に、三浦義村が安房国東条寺(千葉県鴨川市)に赴く（1182年）		源頼朝、三浦十二天・栗浜大明神等に馬を献納する（1182年）	
15	16	17	18	19	20	21
					三浦義村、多勢を率いて上洛する(1229年)	和田義盛、安田義定誅戮の功により新恩を賜る（1194年）
22	23	24	25	26	27	28
三浦一族、源頼朝の挙兵に呼応し、これに合流するため三浦を出立する(1180年)	三浦義村の娘(のちの矢部禅尼禅阿)と北条頼時(泰時)が婚儀を結ぶ(1202年)	三浦一族は頼朝敗北の報を聞き、丸子河辺より撤兵し三浦に向かう途次、由井浦で畠山重忠と戦い、多々良重春が戦死するものの、一族は重忠を退けて三浦に帰る(1180年)		源頼朝、三崎に赴き遊覧(1195年)	三浦義明が討ち死し、義澄等の一族は安房国へ出航(1180年)	
29	30	31				
源頼朝内室、岩殿観音堂に参詣(1193年)						

三浦一族
月別出来事表

9月

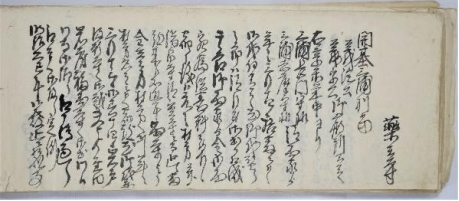


西御門（鎌倉市）
幕府があった西側の場所。現在の横浜国立大学附属鎌倉小学校・中学校の地に三浦氏の館があった。

1	2	3	4	5	6	7
	三浦義村・和田義盛・和田常盛・和田景長等、源頼朝後室の命により比企能員追討の軍に加わる（1203年）		三浦泰村、筑前国宗像社（福岡県宗像市）預所職に補任される（1221年）	・源頼家、北条時政誅伐を和田義盛等に命じるものの、義盛は時政に頼家の書状を渡す（1203年） ・三浦義村の鎌倉西御門の屋敷が焼亡（1224年）		
8	9	10	11	12	13	14
		三浦泰村、大番勤仕のため内室を伴って上洛する（1229年）			源実朝が三浦に赴き、三浦義村がその饗応を行う（1217年）	
15	16	17	18	19	20	21
・源頼朝の上洛にあたり、和田義盛が先陣の随兵の奉行、佐原義連が物具の奉行となる（1190年） ・三浦泰村、掃部権助に任じられる（1237年）			・源頼朝、岩殿観音堂に参詣（1193年） ・源実朝、岩殿観音堂に参詣（1212年）			
22	23	24	25	26	27	28
	源頼家、和田義盛の家に赴き相撲を覧る（1199年）					
29	30					
源頼朝、三浦義明追善のため、三浦矢部郷内に一堂を建てようとし、この日中原仲業に巡検させる（1194年）						

三浦一族
月別出来事表

10月



薬王寺跡(横須賀市)
薬王寺は、和田義盛が三浦義澄及び杉本義宗の菩提を弔うために建立したと伝わる。既に廃寺となっているが、現在も伝三浦義澄の墓が残る(上の画像)。下の画像は、江戸～明治の頃の同寺に関する記述(「三浦郡矢部郷御鑑帳」横須賀市立中央図書館郷土資料室蔵)。

1	2	3	4	5	6	7
			北条義時、三浦義村の田村別荘に赴く(1223年)			
8	9	10	11	12	13	14
		三浦家村、掃部丞に任じられる(1229年)		三浦義村、左衛門尉に任じられる(1211年)		
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
				源頼家、三浦栗浜大明神に参詣(1195年)	三浦泰村、式部少丞に任じられる(1237年)	三浦義澄・三浦義村・和田義盛ら、御家人66人が連署状を作成して梶原景時を告発し、義村・義盛はこれをお江広元のもとに持参す(1199年)
29	30	31				

三浦一族
月別出来事表

11月



永福寺跡(鎌倉市)

將軍の同寺参詣の際、三浦一族は度々これに供奉したほか、三浦義澄・義村は永福寺の担当奉行をつとめた。また、三浦光村は、宝治合戦の際、当初永福寺に陣を張り、その後、兄泰村が立て籠っていた法華堂に参じた。

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
		源頼朝の寵女亀の前、伏見広綱とともに大多和義久の鎧指宅に逃れる（1182年）			三浦義村、従五位下に叙され、駿河守に任じられる(1219年)	
15	16	17	18	19	20	21
幕府、鎌倉中寺社奉行を定め、和田義盛が鶴岡八幡宮の奉行、三浦義村が永福寺の奉行となる（1203年）		源頼朝、和田義盛を侍所別当（侍別当）に任じる（1180年）		三浦義村、藤原実雅旧妻（北条義時の娘）と源通時の婚姻を仲介する（1225年）		
22	23	24	25	26	27	28
29	30					
・三浦泰村、従五位下に叙される（1237年） ・三浦泰村・光村・家村等の三浦一族、鎌倉若宮大路下馬橋付近で小山一族と喧嘩におよぶ(1241年)						

三浦一族
月別出来事表

12月



三浦為通・義継の墳墓（横須賀市）
三浦氏初代とされる為通と3代義継
の墳墓は、大矢部の円通寺（廃寺）
そばの岩穴にあった（写真は大正8年
発行の絵葉書）。昭和14年（1939）、こ
の地が海軍に収用されたため、三
浦一党93基の墓や板碑などともに
清雲寺に移された。

1	2	3	4	5	6	7
	新に御願寺社に奉行人が置かれ、三浦義澄が永福寺奉行人となる（1194年）			・新御所の上棟あり、三浦義村等が参上する（1225年） ・三浦義村が没する（1239年）		
8	9	10	11	12	13	14
			源頼朝、院参し御家人10人の任官を推挙する。三浦義村は右兵衛尉に、和田義盛・佐原義連は左衛門尉にそれぞれ任じられる（1190年）			源実朝が永福寺以下の御堂に参詣し、三浦義村・和田常盛がこれに供奉する（1203年）
15	16	17	18	19	20	21
			幕府、梶原景時を鎌倉より追放し、三浦義村・和田義盛がこれを奉行する（1199年）			幕府、評定衆を設置し、三浦義村がその中に入る（1225年）
22	23	24	25	26	27	28
	三浦泰村内室（北条泰時の娘）が没する（1236年）		三浦泰村、若狭守に任じられる（1237年）	平治の乱が起き、三浦義澄は源義朝勢としてこれに参加（1159年）		北条政村（義時の子）が元服し、三浦義村が加冠役をつとめる（1213年）
29	30	31				